

佐久市立近代美術館
開館30周年記念
所蔵名品選



〔時代〕

明治大正・戦前昭和期
1868—1945

戦後昭和期
1945—1989

平成
1989—2013

松林桂月
《威風八荒図》(部分)

長縄士郎
《花菖蒲》(部分)

袴田京太郎
《Daughter and Fathers》(部分)



184. 壁の絵 絵の壁 2002・カンヴァス/油彩・89.4×130.3cm

藤井道子(ふじいみちこ)・1974—

神奈川県に生まれる。1999年創刊美術学校卒業、2000年創刊美術学校研究科修了。師・木村克明。カンヴァスに絵の具を広げると現実的には絵の具の厚みができてくるのだが、同時に内側に向かって呼吸がなされる。そんな不思議な世界に思いを馳せて、実験を続けている。



185. 5 Porcelain pumpkins 2002・セラミック/5個組・各8.5×11×12.5cm

草間彌生(くさまやよい)・1929—

長野県出身。10歳の頃より網目と水玉をモチーフとした作品を描く。1957-73年渡米。その間、性や動物をテーマにしたソフトスカルプチャーを発表、鏡や電飾を用いた環境芸術の先駆者としても活躍。60年代後半には多数のハプニングを繰り広げる。生き様そのものが彼女の芸術を如実に語っており、多くの人を魅了している。無限を思わせる水玉からは尽きることない永遠の生命力が湧き出てくるようだ。